

川村学園女子大学研究紀要 第27巻 第2号 73頁—86頁 2016年

大学生の仕事観に関する研究

松 井 洋*

Work Values of University Students

Hiroshi MATSUI

要 旨

大学生の問題のうち、現在の人間関係などの現在の適応の問題の他に、将来に関する問題も考慮すべき要因である。つまり、大学卒業後どのような生き方をしたいと思っているかということであり、このことは将来の問題であると同時に、人生観などの現在の在り方の問題でもある。そこで、本研究では大学生の将来意識のうち仕事に対する意識を取り上げた。そして、仕事に対する意識を規定する価値観や人生観について分析した。

仕事意識に関する項目を因子分析したところ6因子構造になり、「安定」、「起業」、「やりがい」などの「働く目的」の多様性と、「働かない」「働きたくない」という仕事観が分類されるということが分かった。

仕事意識を従属変数とし、価値観や人生観を独立変数とした重回帰分析の結果などから、仕事の意識に影響する次元は、対人的態度、内発的動機、将来展望ということが基本要因として考えられる。対人的態度が接近傾向だと「安定志向」、回避的だと「自立志向」という仕事に対する態度が生まれる。対人接近ということに自己主張的な積極性が加わると「営業職志向」になり、「自立志向」の態度に人嫌いと経済的自立意識の低さ、そして創造と自己主張が加わると「研究職志向」となる。内発的動機が強いと「やりがい志向」弱いと「仕事嫌い」。内発的動機を基調とするがそれが内にこもると「メーカー志向」となり、内発的動機の弱さにネガティブな将来展望と人嫌いが加わると「フリーター志向」となる。

キーワード：大学生、仕事観、価値観、人生観

*教授 社会心理学・文化心理学・教育心理学

問題と目的

筆者はこれまで大学生の生活、意識、適応について研究してきた。たとえば、大学生の不適応に影響する要因として、授業理解、友人関係、入学目的などについてその組み合わせ効果などを指摘している（松井他（1991）松井・中村・田中（2010）中村・松井・田中（2011）松井・田中・中村（2012）。また、松井（2013）（2014）（2015）では大学生の諸問題を世界観というような認識の枠組みから分析している。

大学生の問題は、現在の授業や勉強、そして人間関係などの適応の問題が重要な要因としてあげられる。しかし、今現在の適応だけではなく、将来をどう考えるのかということも考慮すべき問題である。つまり、大学卒業後どのような生き方をしたいと思っているかということであり、このことは大学生の将来の問題であると同時に、彼らの現在の在り方を規定する問題でもあると言えるからである。すなわち、将来どのような人生や仕事を志向しているのかという態度は人生観の反映である。と同時に、それは、現在の生き方に影響していくだろう。本研究では将来の生き方という態度のうち仕事に対する意識を取り上げた。大学生の関心事のうち卒業後の就職や仕事についての関心と不安は大きいと思われ、現在の生活などさまざまな事柄に影響すると思われるからである。そして、そのような仕事意識を規定する大学生の心の在り方、価値観や人生観について分析することで大学生の問題の在り方について理解することができるであろう。

今回の研究では特に、大学生の問題を仕事観という観点から検討する。大学生の仕事観を分析して、その規定因について考えていくこと、そこから大学生の問題を検討してみるが本研究の目的である。

方 法

1. 調査対象者

調査対象者は、東京都内および近郊の大学生 116 名（女子 89 名、男子 27 名）。

2. 実施時期

2015 年 7 月。

3. 調査項目

質問項目は「仕事意識」、「価値観」、「人生観」の項目 114 問である。仕事意識については「仕事や職業や将来についてどう思っていますかあなたにとって以下のことはどのくらい重要なことですか」という質問で 47 項目。価値観は「あなたにとって以下のことはどのくらい重要なことだと思いますか」で 46 項目。人生観は「あなた自身について以下のことはどのくらいあてはまりますか」で 21 項目である。回答は、仕事意識は「きわめて重要」から「全く重要でない」までの 6 件法、他は「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」「どちらかというにあてはまらない」「あてはまらない」の 4 件法である。具体的な質問項目は表 1 以下の因子分析結果に示す。

結 果

1. 仕事観の因子

方法で述べたように、質問項目は「仕事意識」、「価値観」、「人生観」の項目より成り立っている。そこでまず、仕事意識の構造について分析する。

仕事意識に関する項目を因子分析したところ（最尤法、プロマックス回転、以下同じ）表 1 のような 6 因子構造になった。

第 1 因子は、大企業、組織、正規雇用、収入、安定志向の項目であり「安定志向」と名付けた。

第 2 因子は、起業、雇う立場、自由業の項目であり「自立志向」と名付けた。

第 3 因子は、やりがい、人のため、成長、自分らしさの項目であり「やりがい志向」と名付けた。

第 4 因子は、フリーター志向、ひきこもり傾向、親もとという項目であり「フリーター志向」と名付けた。

第 5 因子は、仕事はしたくない、しかたなくという項目であり「仕事嫌い」と名付けた。

第 6 因子は、メーカーで働く、IT 起業という項目であり「メーカー志向」と名付けた。

2. 価値観の因子

価値観に関する項目を因子分析したところ（最尤法、プロマックス回転）表 2 のような 9 因子構造になった。

3. 人生観の因子

人生観に関する項目を因子分析したところ（最尤法，プロマックス回転）表3のような5因子構造になった。

表1 仕事意識

		因子					
		I 安定志向	II 自立志向	III やりがい 志向	IV フリーター 志向	V 仕事嫌い	VI メーカー 志向
できれば大企業に就職したい		.932					
大きな組織の一員でいたい		.660					
非正規雇用はどうしても避けたい		.553					
職業選択で収入が最も大切		.473					
安定した職業に就きたい		.418		.373			
起業したいと思う			.864				
雇われるより雇う立場になりたい			.769				
自由業にあこがれる			.518				
海外で働きたい			.416				
仕事を選ぶときはやりがいがあることが大切				.765			
人のためになる仕事がしたい				.716			
仕事を通して成長していきたい				.587			
所得や待遇より自分らしさを発揮できる仕事				.460			
フリーター志向がある					.922		
ひきこもりの傾向がある					.530		
ずっと親のもとで生きていきたい					.484		
できれば仕事はしたくない						.918	
仕事は生きがいだ						-.490	
仕事は生きていくためしかたなく						.461	
メーカーで働きたい							.841
IT関連の仕事がしたい							.565
因子間相関	1		.265	.186	.026	.197	.342
	2			.163	.294	.213	.286
	3				-.185	-.279	-.001
	4					.325	.297
	5						.220

大学生の仕事観に関する研究

表2 価値観の因子分析結果

		因子								
		I 自己 実現	II マイ ペース	III 対人 尊重	IV 創造的	V 家庭	VI 経済 自立	VII 社会 正義	VIII 気分 高揚	IX 対人 優越
成長すること		.997								
困難な目標達成		.723								
能力を発揮する		.713								
自分自身に自信がもてる		.636								
自分らしさを大切にすること		.608								-.387
自然であること		.536								
人と違うこと		.450								.307
前向きであること		.440							.360	
まったりしていること			.847							
のんびりできる			.791							
自由気ままに生きる			.781						.318	
安定した生活			.536							
人にわずらわされない			.526							
自分が周りの人たちから好かれる				.953						
人から尊敬される				.777						
人から愛される				.410						
クリエイティブであること					.886					
創造すること					.869					
子どもをつくる						1.051				
結婚する						.851				
仕事をする							.810			
経済的に独立する							.749			
落ち着いた気分でいられる			.355				.361			
正しいことをしていると思える								.978		
自分が社会のためにたっている		.320						.529		
気分がうきうきするようなことがある									.663	
面白おかしく生きる									.484	
夢を実現する									.314	
自分が人と比べて優れている										.708
人から注目される				.474						.503
因子間相関	1		.426	.457	.286	.329	.579	.507	.517	.326
	2			.328	.017	.388	.245	.168	.427	-.006
	3				-.104	.396	.305	.241	.259	.100
	4					.043	.134	.261	.161	.282
	5						.319	.142	.259	.177
	6							.206	.178	.265
	7								.400	.199
	8									.168

表3 人生観の因子分析結果

		因子				
		I 幸福感	II 自己主張	III 人嫌い	IV 絆重視	V 将来明るい
人との関係に満足		.895				
幸福だと思う		.701				
女（男）に生まれてよかった		.384				
他の人にどう思われても自分は自分			.782			
しっかり自己主張するほう			.532			
自由にのびのびと行動している			.517			
人と接するのは気が重い				.994		
自分はオタクだ				.340		
みんなから孤立するのは怖い					.996	
人どうしの絆はとても大切		.300			.392	
自分の将来に夢がある						.720
自分のこれからの人生は明るい						.641
因子間相関	1		.314	-.303	.187	.501
	2			-.113	-.108	.306
	2				-.041	-.131
	3					.091

4. 「仕事意識」を説明する「価値観」「人生観」

上記の「仕事意識」の各因子の背景にある要因について検討するため、仕事意識の各因子得点を従属変数とし、価値観、人生観を説明変数とする重回帰分析を行った（ステップワイズ法）。結果は表1のとおりである。

1) 安定志向

仕事意識のうち「安定志向」の重回帰分析の結果は表4のとおりである。

決定係数は低くはない。価値観や人生観の変数のうち、人との絆を重視し、マイペースで、人から優越し、高揚しない落ち着いた気分を求める気持ちが「安定志向」をよく説明する。

2) 自立志向

仕事意識のうち「自立志向」の重回帰分析の結果は表5のとおりである。

決定係数は低くない。価値観や人生観の変数のうち、対人優越はプラスで高いが幸福感はマイナスであること、またマイペースであること、加えて創造的で、気分が高揚でないことが「自立志向」をよく説明する。

大学生の仕事観に関する研究

表4 仕事意識の重回帰分析 従属変数：安定志向 $R = .595$, $R^2 = .354$

	標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
(定数)	-.007	.073		-.095	.925
絆重視	.344	.078	.360	4.430	.000
対人優越	.347	.086	.322	4.030	.000
マイペース	.338	.095	.334	3.560	.001
気分高揚	-.316	.100	-.297	-3.152	.002
自己主張	.183	.092	.163	1.996	.048

表5 仕事意識の重回帰分析 従属変数：自立志向 $R = .623$, $R^2 = .388$

	標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
(定数)	.006	.070		.084	.933
対人優越	.378	.087	.362	4.360	.000
創造的	.248	.080	.259	3.117	.002
マイペース	.288	.089	.294	3.253	.002
気分高揚	-.264	.098	-.256	-2.697	.008
自己主張	.229	.094	.212	2.428	.017
幸福感	-.342	.100	-.336	-3.427	.001
将来明るい	.237	.111	.215	2.137	.035

表6 仕事意識の重回帰分析 従属変数：やりがい志向 $R = .794$, $R^2 = .631$

	標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
(定数)	-.030	.051		-.585	.559
自己実現	.566	.078	.613	7.289	.000
将来明るい	.267	.065	.251	4.135	.000
経済自立	.201	.074	.207	2.730	.007
対人尊重	-.158	.062	-.169	-2.531	.013

3) やりがい志向

「やりがい志向」の重回帰分析の結果は表6のとおりであり、決定係数は高い。自分の成長や達成を重視する自己実現という価値観が、職業意識においても成長や人のため、そして仕事のやりがいを重視する仕事観につながる。また将来が明るいということもやりがい志向を説明する。

4) フリーター志向

「フリーター志向」の重回帰分析の結果は表7のとおりであり、決定係数は高くはないがある程度説明している。ひきこもりや親頼りという傾向を含むフリーター志向は、人嫌いということ、そして加えて将来が明るくないという世界観と関連する。

5) 仕事嫌い

「仕事嫌い」の重回帰分析の結果は表8のとおりであり、決定係数は高くはないがある程度説明している。仕事をするをを好まず、できればしたくないという態度は、自分は自分という自己主張という人生観を中心に、将来が明るくないという世界観と幸福度の低さが説明する。

6) メーカー志向

「メーカー志向」の重回帰分析の結果は表9のとおりであり、決定係数は高くはないがある程度説明している。メーカーやIT志向のこの態度は、自由、優越、自己実現という内発的な

表7 仕事意識の重回帰分析 従属変数：フリーター志向 $R = .431$, $R^2 = .186$

	標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
(定数)	.017	.078		.216	.830
人嫌い	.295	.082	.316	3.617	.000
将来明るい	-.255	.095	-.235	-2.688	.008

表8 仕事意識の重回帰分析 従属変数：仕事嫌い $R = .480$, $R^2 = .230$

	標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
(定数)	.005	.079		.063	.950
将来明るい	-.305	.123	-.269	-2.481	.015
自己主張	.364	.107	.328	3.389	.001
社会正義	-.194	.082	-.204	-2.362	.020
絆重視	.222	.085	.235	2.615	.010
幸福感	-.258	.116	-.247	-2.224	.028

表 9 仕事意識の重回帰分析 従属変数；メーカー志向 $R = .391$, $R^2 = .153$

	標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
(定数)	.016	.079		.204	.838
幸福感	-.208	.092	-.210	-2.272	.025
対人優越	.293	.098	.288	2.978	.004
マイペース	.289	.096	.303	3.000	.003
自己実現	-.243	.104	-.260	-2.339	.021

表 10 仕事意識の重回帰分析 従属変数；営業職に就きたい $R = .500$, $R^2 = .250$

	標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
(定数)	2.847	.066		42.849	.000
対人優越	.268	.077	.294	3.471	.001
社会正義	-.245	.070	-.303	-3.527	.001
絆重視	.248	.069	.308	3.620	.000
自己主張	.228	.080	.242	2.840	.005

動機に支えられた志向である。

7) 営業職に就きたい

仕事意識の因子の分析に次いで、職業意識のうちキー項目をアプリオリに選んで従属変数とした分析を行った。

「営業職に就きたい」を従属変数とした重回帰分析の結果は表 10 のとおりである。決定係数は高くはないがある程度説明している。説明変数は、人との絆を重視して、しかし人に優れたい、また自己主張するという、他者を意識する態度である。一方で社会正義と言う意識は低い。

8) 研究職

「研究職に就きたい」を従属変数とした重回帰分析の結果は表 11 のとおりである。決定係数は高くはないがある程度説明している。説明変数は、人嫌いで、経済的自立という態度が薄く、創造性と自己主張という態度が研究職志向を説明する。

表 11 仕事意識の重回帰分析 従属変数：研究職に就きたい $R = .555$, $R^2 = .308$

	標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
(定数)	3.092	.074		42.038	.000
人嫌い	.318	.077	.334	4.109	.000
自己主張	.249	.090	.230	2.762	.007
経済自立	-.314	.082	-.310	-3.818	.000
創造的	.218	.080	.226	2.727	.007

表 12 仕事意識の重回帰分析 従属変数：就職したくない $R = .473$, $R^2 = .224$

	標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
(定数)	2.925	.083		35.384	.000
経済自立	-.382	.093	-.354	-4.087	.000
絆重視	.267	.085	.269	3.123	.002
将来明るい	-.291	.100	-.245	-2.909	.004

8) 就職したくない

「就職したくない」を従属変数とした重回帰分析の結果は表 12 のとおりである。決定係数は高くはないがある程度説明している。説明変数は、経済自立でなく、人との絆を重視し、将来は明るくない。

5. 性差

安定志向は男子が強い ($t(53.78) = 3.000$, $p = .004$)、起業自立は男子が強い ($t(114) = 2.595$, $p = .011$)、仕事したくないは男子が強い傾向がある ($t(114) = 1.963$, $p = .052$)。なお、項目別で男子が強いのは、非正規雇用はどうしても避けたい ($t(114) = 2.290$, $p = .024$)。できれば仕事はしたくない ($t(114) = 2.019$, $p = .046$)。起業したいと思う ($t(114) = 2.148$, $p = .034$)。雇われるより雇う立場になりたい ($t(114) = 2.742$, $p = .007$)。できれば大企業に就職したい ($t(59.96) = 3.100$, $P = .003$)、研究職に就きたい ($t(114) = 2.073$, $P = .040$)、販売や接客の仕事は好きでない ($t(114) = 2.897$, $p = .005$) である。

考 察

大学生の問題のうち、現在の人間関係などの適応の問題の他に将来をどう考えるかという問題も大学生のあり方を規定する要因である。つまり、大学卒業後どのような生き方をしたいと思っているかということであり、このことは将来の問題であると同時に、現在の行動や、在り方に影響し、大学生の心性を考える上でも重要な問題でもある。本研究では大学生の将来意識のうち仕事に対する意識を取り上げた。大学生の将来への意識のうち中核をなすことと考えたからである。そして、仕事意識を規定する価値観や人生観について分析した。

結果は、仕事意識に関する項目を因子分析したところ6因子構造になった。

第1因子は、大企業、組織、正規雇用、収入、安定志向の項目であり「安定志向」と名付けた。大企業、正規、収入ということが「安定」「安全」という仕事のありかたを示すものであると言える。

第2因子は、起業、雇う立場、自由業の項目からなり「自立志向」と名付けた。これは第1因子とは反対に、組織より独立という態度である。

第3因子は、やりがい、人のため、成長、自分らしさの項目であり「やりがい志向」と名付けた。これは所得、収入、処遇より自分らしさを求める態度である。

第4因子は、フリーター志向、ひきこもり傾向、親もとという項目からなり「フリーター志向」と名付けた。これは、人や社会から遠ざかりたいので仕事を忌避するという形の仕事意識である。

第5因子は、仕事はしたくない、しかたなくという項目であり「仕事嫌い」と名付けた。これはフリーター志向と関係があるかと思いきや、因子間相関を見るとまた別の態度である。できれば仕事などしないで済ませたいが、生きるためにはまあ仕方なく仕事をしようということであり、前項のような社会から逃避するような態度ではないのである。

第6因子は、メーカーで働く、IT起業という項目であり「メーカー志向」と名付けた。物作り志向であるともいえるが、因子間相関から見て安定志向という傾向もあるようだ。

以上のように「仕事意識」について分析したが、ここで取り上げているのは、いわゆる職業適性などで問題にされる職業分類に基づくような職種への興味や適性ではない。「仕事」「職業」に対する基本的な態度を核にした「生き方」についての分析である。そして、これによって、安定、起業、やりがいなどの「働く目的」の多様性と、「働かない」「働きたくない」という仕事観が分類されるということが分かった。

仕事意識の背景要因を検討して、それによってそれぞれの仕事意識の構造を明らかにするた

めに仕事意識の各因子得点を従属変数とし、価値観、人生観を説明変数とする重回帰分析を行った。なお、仕事意識以外の質問項目は価値観と人生観に分けて因子分析をした。価値観について因子分析をした結果9因子、人生観は5因子構造であった。この両者は重なりある概念・内容であるが、価値観は「あなたにとってどのくらい重要か」という質問であり、人生観は「どのくらいあてはまりますか」という質問への回答であった。この点において両者を区別しているが、人生観と名付けた因子は今の状態という内容だとも言える。

「安定志向」を説明する独立変数は価値観や人生観の変数のうち、人との絆を重視し、マイペースで、人から優越し、高揚しない落ち着いた気分を求める気持ちが「安定志向」をよく説明する。人と一緒にうまくやっていくことと雇用や収入が安定していることだけではなく人と一緒にうまくやっていくという態度が安定志向の基本となる。対人優越ということも安定志向を説明する要因であるが、これも他者を意識するということである。つまり、仕事意識の一番目の種類である「安定志向」は人と一緒にうまくやりたい、そしてあまりがんばりたくないが自分だけ落ちこぼれたりしないで横並びで生きていくという人を意識した態度である。

「自立志向」を説明する変数は対人優越が高いが幸福感はマイナスでマイペースで気分が高揚でない、つまりかなり「冷めた」気分+創造的という態度である。自立志向の因子には起業するという項目があり前向き、積極的な生き方と受け取りがちだが、現在の若者の自立志向は、むしろ他人に使われたり、人とうまくやっていくことが好きではないということから生じる「自立」である。

仕事における「やりがい志向」は、自分の成長や達成を重視する自己実現という価値観によって説明され、将来が明るいと思う世界観が仕事についても反映されたものである。「安定志向」と「自立志向」がどちらも対人的接近と回避ということを基調としているのに対して、「やりがい志向」は内発的な動機に基づく仕事観と言える。

「フリーター志向」という因子はひきこもりや親頼りという傾向を含んでいて、これは人嫌いということ、そして加えて将来が明るくないという世界観とによって説明される態度である。

「仕事嫌い」の因子で表される、仕事をするをを好まず、できればしたくないという態度は、自分は自分という自己主張という人生観を中心に、将来が明るくないという世界観と幸福感の低さと関係しており、ネガティブで自己中心的な態度である。

「メーカー志向」メーカーやIT志向のこの態度は、マイペース、優越、自己実現という内発的な動機も含まれる志向である。ただ、幸福感とはマイナスであることや因子間相関からみてあまり仕事は好きではなく前向きではないが安定と自分のために働くという否定的な意味の

マイペースと言う傾向のある態度である。

アприオリに選んで従属変数とした項目については「営業職に就きたい」は人との絆を重視して、しかし人に優れたいと言う、他者を意識する態度である一方で、社会正義と言う意識は低い。営業志望は協力にしても競争にしても人との関係重視の態度である。研究職志望は営業職とは対照的で、人嫌いで、経済的自立と言う態度が薄く、創造性と自己主張という態度である。「就職したくない」は経済自立でなく、人との絆を重視し、将来は明るくないで、フリーター志向や仕事嫌いと共通する将来についてネガティブな態度である。

以上のことから仕事の意識に影響する次元は、対人的態度、内発的動機、将来展望ということが基本要因として考えられる。対人的態度が接近傾向だと「安定志向」、回避的だと「自立志向」という仕事に対する態度が生まれる。対人接近ということに自己主張的な積極性が加わると「営業職志向」になり、「自立志向」の態度に人嫌いと経済的自立意識の低さ、そして創造と自己主張が加わると「研究職志向」となる。内発的動機が強いと「やりがい志向」弱いと「仕事嫌い」。内発的動機を基調とするがそれが内にこもると「メーカー志向」となり、内発的動機の弱さにネガティブな将来展望と人嫌いが加わると「フリーター志向」となる。

性差については男子が強い仕事意識の因子は安定志向と起業自立で、項目別でも安定志向と関係ある大企業や非正規雇用を避ける態度、起業したいや雇う立場等起業自立の項目でもその態度が裏付けられた。このように男子は安定と起業と方向は違っても仕事に対する態度が前向きであった。しかし、男子は仕事をしたくない傾向や販売接客を嫌う態度など仕事にネガティブな側面もまたあった。仕事に対して両価的という傾向もあるということであり、これは男子において仕事に対するコミットメントがより大きいことや、それによってプレッシャーもまた大きいということよとも考えられる。

文 献

- 松井 洋（1992）大学生の学校適応と授業態度に関する研究 川村学園女子大学研究紀要，第3巻第1号，147-165.
- 松井 洋・中村 真・田中 裕（2010）. 大学生の大学適応に関する研究 川村学園女子大学研究紀要，第21巻1号，121-133.
- 松井 洋・田中 裕・中村 真（2011）. 大学生の大学適応に関する研究 平成22年度川村学園女子大学教育研究奨励報告書，59頁.
- 松井 洋・田中 裕・中村 真（2012）. 大学生の大学適応に関する研究Ⅲ 川村学園女子大学研究紀要，第23巻1号，117-129.
- 松井 洋（2013）. 若者の世界観と適応 川村学園女子大学研究紀要，第24巻1号，107-129.

松 井 洋

松井 洋（2014）. 大学生の世界観・人生観・自己観と幸福感 川村学園女子大学研究紀要, 第 25 巻 1 号 85-106.

松井 洋（2015）. 大学生における不適応傾向の分析 川村学園女子大学研究紀要, 第 26 巻 1 号, 77-91.

中村 真・松井 洋・田中 裕（2011）. 大学生の大学適応に関する研究Ⅱ ―入学目的, 授業理解, 友人関係でみた対象者のタイプと大学不適応との関連― 川村学園女子大学研究紀要, 第 22 巻第 1 号, 85-94.